

## 2021 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科                                                                                                                                                               | 言語聴覚士学科    |                 | 科 目 区 分                | 専門分野                 | 授業の方法                   | 講義            |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|-----------------|------------------------|----------------------|-------------------------|---------------|
| 科 目 名                                                                                                                                                             | 補聴器・人工内耳 I |                 | 必修/選択の別                | 必修                   | 授業時数(単位数)               | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年                                                                                                                                                           | 昼間部2年生     |                 | 学期及び曜時限                | 前期 火曜4限              | 教室名                     | 4校舎301        |
| 担 当 教 員                                                                                                                                                           | 西岡隼基       | 実務経験と<br>その関連資格 |                        |                      |                         |               |
| 《授業科目における学習内容》                                                                                                                                                    |            |                 |                        |                      |                         |               |
| 聴覚のリハビリテーションには必ずついてくる「補聴器・人工内耳」について種類・機能の基礎知識を修得し、リハビリテーションにおいての活用方法を学習する。                                                                                        |            |                 |                        |                      |                         |               |
| 《成績評価の方法と基準》                                                                                                                                                      |            |                 |                        |                      |                         |               |
| 期末試験にて60%以上の得点をもって合格とする。                                                                                                                                          |            |                 |                        |                      |                         |               |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》                                                                                                                                                 |            |                 |                        |                      |                         |               |
| 標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第2版(医学書院)                                                                                                                                         |            |                 |                        |                      |                         |               |
| 《授業外における学習方法》                                                                                                                                                     |            |                 |                        |                      |                         |               |
| 予習および復習を行うことが望ましい。                                                                                                                                                |            |                 |                        |                      |                         |               |
| 《履修に当たっての留意点》                                                                                                                                                     |            |                 |                        |                      |                         |               |
| 補聴器・人工内耳の分野は医療従事者、患者のみならず他業種(補聴器販売店、人工内耳製造・販売業者)の方と関わりながら行うリハビリテーションとなり、各々の役割をより明確にし業務を行う分野となる。言語聴覚士はリハビリテーションのプロフェッショナルとして患者本人のQOLの維持・向上を目指すため関わる知識を網羅しておく必要がある。 |            |                 |                        |                      |                         |               |
| 授業の方法                                                                                                                                                             | 内 容        |                 |                        | 使用教材                 | 授業以外での準備学習<br>の具体的な内容   |               |
| 第1回                                                                                                                                                               | 講義形式       | 授業を通じての到達目標     | 補聴器の基本構造を理解する          | 教材、<br>配布資料、<br>スライド | 事前学習として該当頁<br>を通読しておくこと |               |
|                                                                                                                                                                   |            | 各コマにおける授業予定     | アナログ補聴器・デジタル補聴器、各部品の名称 |                      |                         |               |
| 第2回                                                                                                                                                               | 講義形式       | 授業を通じての到達目標     | 補聴器の種類と特徴を理解する         | 教材、<br>配布資料、<br>スライド | 事前学習として該当頁<br>を通読しておくこと |               |
|                                                                                                                                                                   |            | 各コマにおける授業予定     | 耳穴形、耳かけ形、各々の種類の部品位置・構造 |                      |                         |               |
| 第3回                                                                                                                                                               | 講義形式       | 授業を通じての到達目標     | 補聴器の音響特性について理解する       | 教材、<br>配布資料、<br>スライド | 事前学習として該当頁<br>を通読しておくこと |               |
|                                                                                                                                                                   |            | 各コマにおける授業予定     | 周波数レスポンス曲線、最大音響利得      |                      |                         |               |
| 第4回                                                                                                                                                               | 講義形式       | 授業を通じての到達目標     | 補聴器の音響特性について理解する       | 教材、<br>配布資料、<br>スライド | 事前学習として該当頁<br>を通読しておくこと |               |
|                                                                                                                                                                   |            | 各コマにおける授業予定     | ハンリニア増幅、圧縮比            |                      |                         |               |
| 第5回                                                                                                                                                               | 講義形式       | 授業を通じての到達目標     | 補聴器の機能について理解する         | 教材、<br>配布資料、<br>スライド | 事前学習として該当頁<br>を通読しておくこと |               |
|                                                                                                                                                                   |            | 各コマにおける授業予定     | イヤモールド、音道、ダンパー、ベント     |                      |                         |               |

| 授業の方法 |      | 内 容         |                              | 使用教材         | 授業以外での準備学習の具体的な内容   |
|-------|------|-------------|------------------------------|--------------|---------------------|
| 第6回   | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 成人の補聴器適応までの流れを理解する           | 教材、配布資料、スライド | 事前学習として該当頁を通読しておくこと |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 機種選択、調整、装用指導                 |              |                     |
| 第7回   | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 補聴器のフィッティング理論を理解する           | 教材、配布資料、スライド | 事前学習として該当頁を通読しておくこと |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | ハーフゲイン、NAL、DSL               |              |                     |
| 第8回   | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 補聴器の調整について理解する               | 教材、配布資料、スライド | 事前学習として該当頁を通読しておくこと |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 最大出力、利得、周波数                  |              |                     |
| 第9回   | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 補聴器の調整について理解する               | 教材、配布資料、スライド | 事前学習として該当頁を通読しておくこと |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 圧縮、抑制、指向性                    |              |                     |
| 第10回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 補聴器の適合検査について理解する             | 教材、配布資料、スライド | 事前学習として該当頁を通読しておくこと |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | ファンクショナルゲイン測定、語音明瞭度測定        |              |                     |
| 第11回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 補聴器適合検査の指針(2010)について理解する     | 教材、配布資料、スライド | 事前学習として該当頁を通読しておくこと |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 環境騒音の許容を指標とした適合評価、質問紙による適合評価 |              |                     |
| 第12回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 乳幼児の補聴器適応までの流れを理解する          | 教材、配布資料、スライド | 事前学習として該当頁を通読しておくこと |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | スクリーニング、保護者へのカウンセリング         |              |                     |
| 第13回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 乳幼児の補聴器選択・調整について理解する         | 教材、配布資料、スライド | 事前学習として該当頁を通読しておくこと |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 装用耳・器種の種類、周波数特性と利得           |              |                     |
| 第14回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 乳幼児の補聴器適合評価について理解する          | 教材、配布資料、スライド | 事前学習として該当頁を通読しておくこと |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 装用状態、聴力・ことばの聴取能              |              |                     |
| 第15回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 成人と乳幼児の補聴器適合の違いを整理し知識を身につける  | 教材、配布資料、スライド | 事前学習として該当頁を通読しておくこと |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 乳幼児のフィッティングと成人のフィッティング       |              |                     |